

スチュワードシップ活動報告（2015年度）

当社は、2014年8月、「責任ある機関投資家」の諸原則《日本版スチュワードシップ・コード》（以下「本コード」と言う。）の主旨に賛同し受入れを表明しており、日本版スチュワードシップ・コードに関する方針を定めました。当該方針に則り実施した2015年度における議決権行使結果と対話結果をお知らせします。

なお、当社は国内上場株式の運用を運用会社へ委託しています。

1. 議決権行使結果

当社の保有する日本株式について、2015年7月から2016年6月末までに開催された株主総会において下記のとおり議決権を行使しましたのでお知らせ致します。

	賛成	反対	棄権	白紙委任	合計
a. 剰余金処分案等	203	2	0	0	205
b. 取締役選任	2,530	67	0	0	2,597
c. 監査役選任	298	68	0	0	366
d. 定款一部変更	107	0	0	0	107
e. 退職慰労金支給	9	6	0	0	15
f. 役員報酬額改定	120	2	0	0	122
g. 新株予約権発行	47	3	0	0	50
h. 会計監査人選任	4	0	0	0	4
i. 組織再編関連	6	0	0	0	6
j. その他会社提案	10	15	0	0	25
合計	3,334	163	0	0	3,497

<主な反対事例>

- 取締役選任議案において、低ROEの会社に対し、代表取締役の再任に反対した。
- 買収防衛策継続の議案において、社外取締役の基準に合致しないことから反対した。
- 業績連動株式報酬の議案において、基準を満たさなかったことから反対した。

2. 対話活動の結果

当社は投資先企業の企業価値の増大、持続的成長を促すための対話を行い、中長期的なリターン拡大につなげて、保険契約者等に対する確実な保険金等のお支払いを支えていく方針です。2015年度においては、主に以下の観点から、運用委託先を通じて投資先企業と対話を実施しました。

対話の種類	件数
状況把握に関する対話	853件
資産効率に関する対話	133件
ガバナンスに関する対話	142件
株主還元に対する対話	302件
総対話数(※1度の訪問で複数種類の対話を含む)	1,396件

<主な対話内容>

- 資本効率性は今期の対話でも大きなテーマとなった。業績が堅調で自己資本比率の高い企業とは、株主還元のあり方についての対話を行った。結果、多くの企業が増配ないし自社株買いを実施した。ROEが低迷する企業とは、現状や課題、収益力の向上策について議論を交わした。
- 変化する経済環境に対する企業の経営方針や重点テーマなどを伺い、意見交換を行った。中期経営計画の妥当性や政策投資に関して保有を継続するデメリットについて対話を行った。株主の利益を害する可能性のあるファイナンスに対しては十分な説明を求め、必要性や合理性を確認し、リターン向上に繋げた。
- 社外取締役の有効活用や買収防衛策について意見や議論を交わした。前期以降、社外取締役・社外監査役を選任する企業は大幅に増加したが、現実客観的な立場から取締役会を監督する役割が果たされているかを伺った。買収防衛策を導入している企業と株主価値という観点で意見交換を行った。